ステムキュア® Case Report 1

症例報告

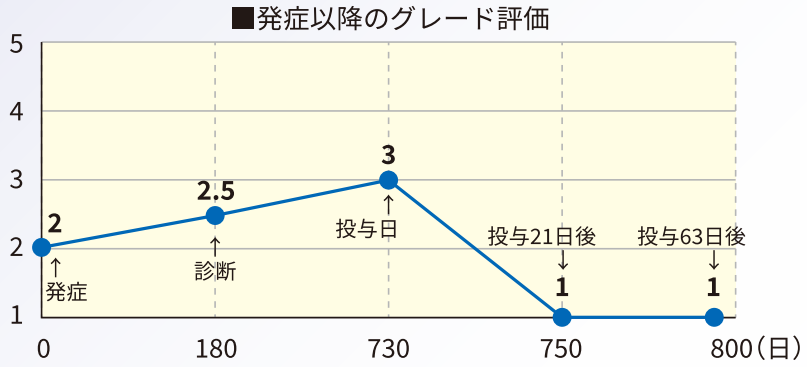
前田獣医科医院　院長　前田浩人 先生

症例１

ポメラニアン　14歳　3.65kg　オス去勢

【経過と症状】

2021年１月頃から腰部と後肢の異変が見られ、同年６月に後肢麻痺による歩行障害が進行し腰部椎間板ヘルニアグレード（以下G）２.５と診断した。13歳と高齢のため手術適応ではないと考え、内科治療（ガバペンチン他投与）を開始したが、歩行障害等は徐々に悪化した。そこで2023年1月ステムキュア®１ｍＬの投与を開始した。投与計画は７日ごとの３回投与であったが、飼主が２回目以降の投与を拒まれた。



飼主の声

投与63日後

【主治医コメント】

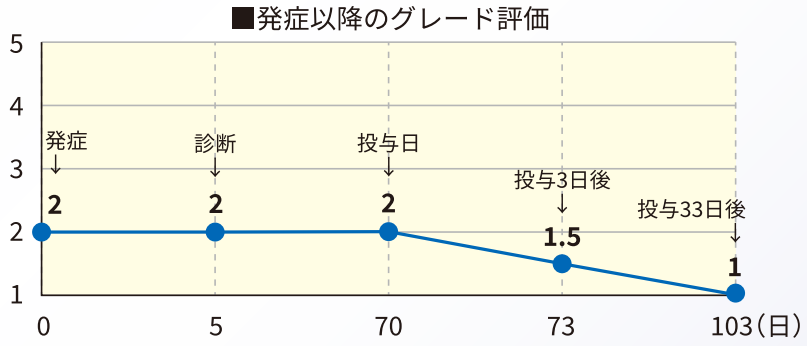
発症から約２年が経過し、症状の悪化は患犬のみならず飼主のＱＯＬ（生活の質）も著しく低下をもたらしたため細胞治療を提案した。飼主は論文を探すなど自身でよく調べたうえで、家族と話し合い本製品の治療を希望された。投与後21日目に明らかな歩行改善が認められ著効と評価した。副作用は認められなかった。

症例2

パピヨン　15歳10カ月　2.75kg　オス去勢

【経過と症状】

2017年4月頃から後肢にやや異変が出始め、2022年12月に左前肢の跛行及び両後肢のふらつき症状が顕著になり2023年１月に来院した。腰椎4ー5椎体及び頸椎6ー7椎体の脊椎症が認められＧ２と診断した。高齢のため手術適応ではないと考え、内科治療（プレビコックス等投与）を開始したが、飼主が連日投与を懸念され疼痛が継続した。そこで同年3月ステムキュア®１ｍＬの投与を開始した。投与計画は７日ごとの３回投与であったが、飼主が２回目以降の投与を拒まれた。



飼主の声

投与33日後

【主治医コメント】

15歳を超えているが患犬は基礎疾患や合併症がなく身体状況が良いため治療上の有益性が安全性を上回ると判断し、飼主も承諾したうえで本剤を投与した。本製品投与3日目頃から歩行の改善が認められ、4週後には前肢を宙に上げることや、走行もできるようになり著効と評価した。副作用は認められなかった。

本製品の使用には「ステムキュア会員」の登録が必要です。

薬機法第23条の26に基づき以下の条件を付されて承認されました。つきましては、弊社ホームページの小動物医療従事者専用webサイトから**会員登録をお願い申し上げます。**

犬の椎間板ヘルニアの診断・治療に対して十分な知識・経験を持つ獣医師の下で、本品の使用が適切と判断される患畜に対して、バイタルサインの確認、臨床検査によるモニタリング等の適切な対応がなされる体制下で本品を使用すること。

会員登録の流れ

STEP 01

小動物医療従事者専用webサイト会員登録

ステムキュア会員登録の前に、当サイト（www.ds-vet.jp）に会員登録をお願いいたします。（既に当サイト登録済みの先生は「STEP２」へ）

❶「無料会員登録」を

❷必要事項を入力し「登録」を

STEP 02

ステムキュア会員登録

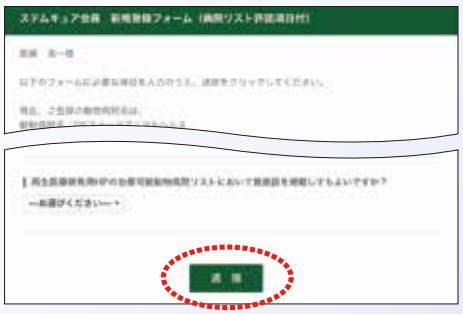
小動物医療従事者専用webサイトにログイン後、「ステムキュア会員▼」のプルダウンメニューの「ステムキュア会員について」から必要事項を入力してください。

❶「ステムキュア会員について」を

❷下段の「新規会員はこちら」を

❸メールアドレス・パスワード入力後「送信」を

❹必須項目を入力後「送信」を



細胞治療の経験もしくは学会教育講義の受講経験がない先生は、オンラインセミナーの受講をお願い申し上げます。
受講日時は、登録完了後に配信されるメールのリンク先から選択戴けます。

bah 物産アニマルヘルス